

平成 28 年熊本地震における災害支援薬剤師活動報告 第 1 班（平成 28 年 4 月 17 日～4 月 18 日）

（一社）宮崎市郡薬剤師会
つばさ薬局 阿部 一智

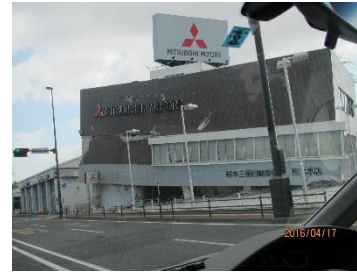
平成 28 年 4 月 14 日（木）21：26「平成 28 年熊本地震」が発生しました。
地震発生 3 日目の 4 月 17 日（日）の早朝 6：30 宮崎県からの災害支援薬剤師チーム第一陣として小山 明俊県薬会長、肥田木 省三先生、岡元 伸二郎先生の 4 名で県薬会館を出発しました。8:30 に八代で高速を降り、3 号線を走り出すと周りの家は屋根瓦が落ち屋根にブルーシートをかけているのが見られ、古い家屋が倒壊しているところも見られました。熊本市内に近づくにつれ自動車会社のショーウインドウや予備校のガラスが割れているところや自動車会社の社屋の一階駐車場が押し潰されて 2 階部分が地面についている光景も見ました。道もところどころ亀裂や波打っているところがあり地震のすごさを感じました。9:12 に熊本県薬剤師会会館に到着しました。日曜日の朝と地震直後 3 日目ということもあり思ったより渋滞はなくスムーズに行くことが出来ました。



宮崎県薬会館を第 1 班出発



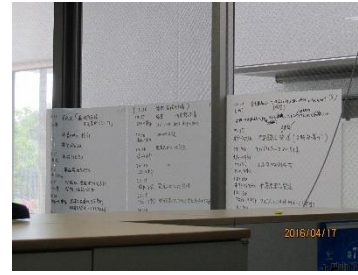
ブルーシートをかけた家



一階部分が潰れた自動車会社

熊本県薬会館では 7～8 名のスタッフが電話対応に追われていました。会館内は電気の供給はあるが、水が出ない状況でした。熊本県薬剤師会から、現在 J M A T が災害処方箋の指示書を出している事、薬局の調剤状況について熊本市内は出来ているが益城町は難しい事、病院は水が出ないので昨日は早く閉めている事、各県から応援が来て有難いがまだ棲み分けが難しい状況、医薬品が不足している事、D M A T、J M A T で意見が分かれている事、モバイルファーマシーだけで 100 人くらい患者さんが来ている事、県の対策本部からは患者の掘り起こしや洗い出しをしてよいと言われている事、グランメッセは物がいっぱいでは入れないのでモバイルファーマシーで出動している事、現在は益城町総合体育館と益城町保健福祉センターの 2 か所に医療チームがいるが保健福祉センターで処方箋がどんどん出て 9 人の薬剤師では回らない状況などの情報を入手しました。まだ地震発生直後で、現場は大変混乱している状況が伝わってきました。

そこで保健福祉センターの応援を依頼され移動することになりました。途中信号機がつかないところもあり、電気の供給も場所によっては止まっていることが分かりました。



熊本県薬災害対策本部看板 電話対応に追われるスタッフ ホワイトボード

10：00 に保健福祉センターに到着しました。建物の中は人がごった返して、建物の裏手に大分県のモバイルカーを見つけ熊本県薬の薬剤師を中心とした支援薬剤師チームに合流しました。そこには 15 日朝からモバイルファーマシーで熊本入りしている大分県、前日夜から入っている福岡県（田川）、宮城県の先生方がおられました。調剤を 24 時間体制で行っているとのことでした。



益城町保健福祉センター 建物裏側の地面の亀裂 モバイルファーマシー



益城町保健センター近辺 道路に段差が出来た交差点 倒壊した家屋

その後すぐに、阿蘇熊本空港ホテルエミナースに医療チームが来て薬剤師の派遣要請と小児の薬も持って来てほしいとの依頼があり、一人誰かついて来てくれと言われたので志願して移動しました。11：35 エミナースに到着し、DMAT（医師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 1 名、事務員 1 名）と熊本県看護協会の 2 名のおられる救護所に合流しました。まずは、エミナースでは水が出ないとの報告を受け、感染対策の衛生管理のためウエルパスにガムテープを貼り「手の消毒」と書き込み簡易トイレなどに配置し、手指消毒を行うよう促しました。医師による診察も開始したので DMAT チームの薬剤師と一緒に調剤を行いました。調剤といってもコロナール錠 3 回分やアンヒバ坐剤 100 2 個、バイアスピリン 100 1T/1×2 日分、モーラスパップ 30 7 枚などの簡単な調剤や、お薬手帳を見て限られたお薬の中から血圧の薬や目薬などの代替え薬を医師に提案などを行いました。途中小山会長と肥田木先生も応援に駆け付け、11：30 から診療を開始して 18:30 まで約 100 名の

方が来られていました。当初は、17:00からは別のDMA Tが来るとのことでしたが、いつまで待っても来られず、医師が連絡を取っても来る手配が出来ていないことが分かり、いったんエミナースの救護所は18:30に閉鎖となりました。



ホテルエミナース



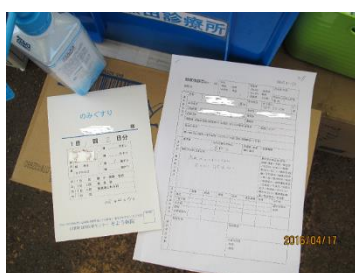
野外での診察



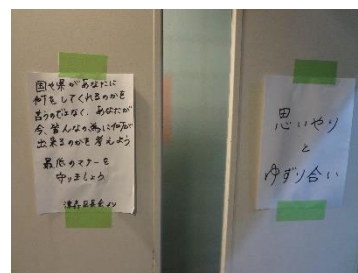
内服薬



外用薬



カルテと薬袋



トイレの前の貼り紙



トイレの前の貼り紙には「国や県があなたに何をしてくれるのかを言うのではなく、あなたが今、みんなの為に何ができるのかを考えよう。最低のマナーを守りましょう。」「思いやりとゆずり合い」と書かれてあるのが印象的でした。

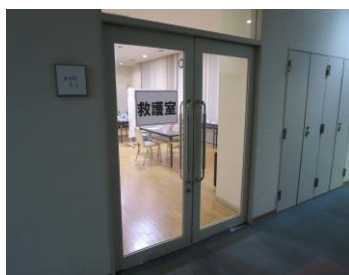
エミナースを出発し、岡元先生を保健福祉センターに迎えに行き、熊本県薬会館に20:40に戻って夕食のカップ麺とおにぎりをいただきました。

その後、再び保健福祉センターに戻って協議して明朝7時から勤務することになりました。仮眠するために再び熊本県薬会館に22:00に戻りました。ところが事態が変わっており、エミナースに自衛隊とJMATが来て薬剤師がいなくて困っているのを至急戻ってほしいとの依頼があり、急遽エミナースに戻ることにしました。その際に、今後、宮崎県薬はエミナースを拠点に活動させてもらう約束をいただき、保健福祉センターには明朝行けない旨の連絡を入れてもらうことにしました。

しかし、22:40にエミナースに到着したところ、熊本県看護協会の看護師さん2名が野外テントにおられるだけで自衛隊もJMATもいませんでした。誤報でした。震災直後で情報が混乱している事があらためて分かりました。しかし、いつ医療チームが来るかわからなかったので0:30まで待機しました。その間も患者さんが来られましたがお薬は救急箱に入ったわずかな市販薬しかなく、症状を聞いて風邪薬を1日分渡すくらいしかできませんでした。このまま起きていても何もできないので、明日に向けて室内の階段下の狭いスペースに毛布を敷いて寝袋で仮眠することにしました。

18日(月)は朝6時前に起床し作業に向けて待機していました。救護所で待っていると雨

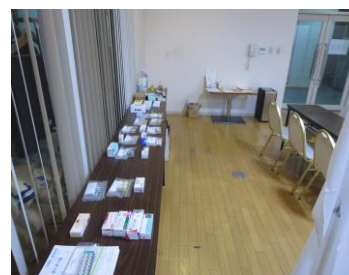
がばらついてきました。その後エミナースのスタッフが来られて、雨が降ると患者さんが大変なので、室内に救護室を作りたいので一緒に来てくれないかと依頼がありました。現在、炊き出しのおにぎりをにぎっている部屋を貸し出していただけるとのことでした。ホテルにはプールがあり、プールサイドにあるビーチベッドを貸していただけることになり、医務室に4台置き診察台として活用し、また、救護室の真向かいの男女のロッカールームにもそれぞれ2台ずつビーチベッドを入れて女性も安心して仮眠が取れるようになりました。



救護室



ビーチベッドの診察台



調剤台

写真提供：橋本 勝史先生

しかし、何時間たっても医療チームは訪れず、患者さんがどんどん来られるので、熊本県薬や日赤の事務局にエミナースにおける医療の必要性について状況報告を小山会長に連絡していただき、一刻も早い対応を要請しました。また、熊本県薬にはせめてOTCだけでもあれば軽微な患者さんには対応できるので至急対応をお願いしたところ、A卸にはあるのでそこに連絡し必要なOTCを現場から注文してほしいと言われました。ところがA卸に連絡したところ、うちはシステムがダウンしてお薬は払い出せないとのことでした。ここでも情報が混乱していて何を信じればよいのかわからない状況でした。結局、午前中はせっかく作った救護室を閉鎖して、熊本県看護協会の方々が作られたホテルフロント前の相談所に合流して、避難されている方の相談を受けたり、血圧を測ったり、必要なOTCを最小限渡すだけの作業で終わりました。

エミナースでは全く水が出ていませんでしたが、18日(月)の朝方にはトイレの水が流れるようになり、昼帰るころには洗面台の水も流れるようになりました。

エミナースでの現状報告と第2班との引き継ぎを行うために熊本県薬会館に11:40に戻り、現場の混乱状況説明と今後の改善点の要望を行い、第2班に情報提供を行って12:00に宮崎に向けて帰路につきました。宮崎市内についてようやく温かい食事を取り、宮崎県薬会館に16:00に無事到着しました。

今回の災害支援活動を通して、まず、あれだけ災害対策の進んでいる熊本県においても地震発生数日後ではまだ情報がしっかり管理されておらず、連絡の行き違いや物資、医薬品、OTCの入手が遅れている状況であったので、もし、宮崎県であっていただろうかと思いましたが、医師も薬もなく、また、OTCさえもないと目の前に患者さんがいても話を聞いてあげるだけで何もできない無力さを感じました。今後被災

地に支援に行く時には、最初のうちはある程度のOTCはこちらから持って行くべきだと思います。また、今振り返れば、ないものを憂えるよりある物でもっと何か出来たのではないかと反省しています。

最後に今回の支援活動の中で一番印象に残り感動したことがありました。18日（月）の朝7時ごろ、救護テントで医療チームの到着を待って待機していると一人の若い女性が立ってこっちを見ていました。「どうかされましたか」と声をかけたところ、「私は熊本市薬に所属している薬剤師で、現在エミナースに避難している者です」と言われました。そして「私でも何かお役に立つことはありませんか」「ここでお手伝いできませんか」と言われました。「もちろんたくさんありますので是非ご協力をお願いします」と返答し、「医療チームが到着したら館内放送を行い案内しますので是非来てください」とお伝えしました。被災されて困難な避難生活を送られているにもかかわらず、困っている人のために働きたいと思われている姿に薬剤師としての誇りを感じました。

いつか宮崎県でも災害は起こると思います。その時には他県からの応援に頼らざるを得ない状況が生まれると思います。その時に、「以前お世話になった宮崎だから来ました」と気持ちよく応援に来てもらうためにも今回の支援はしっかり継続的に行っていないといけないと思いました。戻ってからはしばらく継続的な人の派遣をお手伝いする後方支援することになりますが、時間が出来たらもう一度熊本に行って、今回の反省を生かして支援活動を行ってきたいと思っています。

以上